

群馬県コンニャクIPM実践指標

(普及指導室)

時期	項目	管理のポイント	点数	チェック欄			
				昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況	
貯蔵期	予備乾燥	ビニールハウスや貯蔵庫内等で予備乾燥を行い、種芋資質を向上させている。	1				
	貯蔵管理	適切な温湿度管理等を行い、障害や病害虫の発生を抑えている。	1				
	植付前	品種選定	病害に強い品種(あかぎおおだま、みやまさり)を選定している。	1			
		種芋選別(必)	病害虫に侵されていない種芋を使用するため、丁寧に選別を行っている。	1			
		種芋消毒	温湯消毒(生子:50、40分)又は農薬による種芋消毒を行っている。また、農薬を使用した場合には、適切な廃液処理を行っている。	1			
ほ場管理	植付前	土づくり(必)	土壌の性質を理解するとともに、土壌診断結果に基づき、有機質資材や土壌改良材の施用を行っている。	1			
			土壌の排水性を改善するため、サブソイラーやブラソイラー等の処理を行っている。	1			
			冬期にライ麦等を栽培し、春先に鋤込んでいる。	1			
		計画的な輪作(必)	連作障害を回避するため、緑肥作物等との輪作を計画的に行っている。	1			
		土壌消毒	周辺環境への影響を考慮した適切な土壌消毒を実施している。	1			
		施肥	過剰施肥を抑え、品種の特性・病害虫の発生等を考慮した、適正な施用量としている。	1			
	植付	栽植密度	適切な栽植密度に植え付けている。	1			
		畝設計	排水経路を考慮した適切な畝の設計を行っている。	1			
	生育期	生育状況の確認	ほ場を定期的に巡回し、ほ場環境や生育状況の把握に努めている。	1			
		保護作物	麦類の全面被覆栽培による根腐病等の抑制や排水性の改善等を図っている。	1			
			麦類の畦溝条播等による土壌流亡防止、排水改善を図るとともに、えそ萎縮の発生を抑制している。	1			
		病害虫の発生状況の確認	ほ場内を見回り、病害虫の発生や被害を把握している。	1			
病害虫防除(必)		病害虫の発生状況や気象予報等を考慮して防除の要否を判断している。	1				
		ボルドー液散布を行う場合、アクアチェック等を活用して、防除時期を決定し、過剰な薬剤散布を避けている。	1				
	腐敗病や葉枯病対策として、ボルドー液散布後の降水量を次回散布の目安としている。	1					
	病害虫や雑草の発生時期・程度に応じて、過剰防除にならないよう適切な農薬を選定し、病害虫等の防除を行っている。	1					
追肥	窒素質肥料の多施用をさけ、追肥は、生育や病害虫の発生状況に応じて適切な時期・量を施用している。	1					
収穫前	葉柄等残渣処理	地上部残渣は、次年度の病害発生の原因となるので、葉柄等の地上部残渣は圃場外に処分している。	1				
全般	農薬使用(必)	飛散防止対策として、障壁作物をほ場周辺に播種している。	1				
		飛散防止対策として、ドリフトレスノズルを使用している。	1				
		上記以外の飛散防止対策(風向き、散布方法等)を行っている。	1				
		薬剤抵抗性(耐性)が確認された農薬を使用していない、また、耐性菌の出現を防止するため、特定の農薬を連続して使用していない。	1				
		使用した器具(タンク、ホース等)は洗いがれがないように、よく洗浄している。	1				
		農薬は鍵のかかる保管庫で、適切に保管管理を行っている。	1				
	作業日誌(必)	各作業の内容や実施日、病害虫や雑草の発生状況、農薬の使用状況等を作業日誌等に必ず記録している。	1				
	研修会等への参加	県や農協等が開催するIPM研修会等に参加している。	1				
		合計 点数					
		評価 結果					